

宿泊施設のご案内

宿泊は、以下の榊原温泉旅館組合加盟の宿泊施設となります。募集時に各宿泊施設のプランからお好きな宿泊施設をお選び（第1希望、第2希望）いただきます。なお、選択が集中した場合は抽選となりますので、第1希望等の施設とならない場合があります。何卒ご了承ください。

湯元 榊原館



湯元榊原館は榊原温泉で唯一源泉井戸を館内に保有し、いつも湧出したばかりの清潔で新鮮な源泉をかけ流してお楽しみいただける「温泉遺産を守る会」認定の源泉掛け流しの宿です。夕食には、国産牛や自家製の米・抗酸化力たっぷりの野菜などを使った美と健康をテーマにした会席料理を味わえます。また、自慢の源泉を使ったオリジナル商品も充実しています。

ホームページ



献湯祭体験特別ツアー

温泉野菜蒸しと松阪牛をお楽しみいただく献湯祭体験ツアーコースです。お部屋はおまかせとなります。

三重県津市榊原町5970

TEL.059-252-0206

旅館 清少納言



～時を愉しむ、過ごし方～

春は山々に、薄桃色の桜が絨毯を広げ 夏の夜は、川辺にホテルがほのかな灯りを。
秋は夕暮れのように木々が頬を染めて 冬は朝の澄んだ自然の風をたのしむ。
“ひととせ”を通して、ふたたびは出逢えぬ“いま”の感動を『清少納言』はお届けいたします。

ホームページ



献湯祭特別プラン『納言会席◇三重の幸』

季節の旬をとらえた、魅せるワザ。『こだわりの美味』を堪能。

三重県津市榊原町6010

TEL.059-252-0048

生きかえる温泉のまち

榊原温泉

榊原町の温泉と豊かな自然は、とても古い時代から人々の心身の健康に関わってきました。伊勢神宮が現在の場所に鎮座されたとされる約2千年前から、神宮にお参りするお清めとして「湯どり」が行われ、この地に多く自生した榊を、古墳時代の斎王ササゲヒメが伊勢神宮に献上したことから「榊が原」と呼ばれるようになり、地名が「榊原」になったと伝えられています。

江戸時代になると「お伊勢参り」が流行しました。都から伊勢への通過点でもある榊原温泉は「湯どり」の地として、榊原温泉で身を清めてから伊勢神宮へと向かうのが正式な参拝とされました。

榊原温泉は清めの湯であるとともに、心身をすこやかに美しくする美人・美肌の湯でもあります。また、榊原温泉は「清少納言ゆかりの日本三名泉」といわれています。枕草子に「湯は七栗の湯 有馬の湯 玉造の湯」と讃えられ、この「七栗の湯」が現在の榊原温泉だとされています。

伊勢神宮と榊原温泉

いにしえから続く「湯どり」の地

「湯どり」とは、神社にお参りするお清めとして、古くは伊勢神宮ができた頃から行われていた風習です。伊勢神宮は2000年前に鎮座され、都から距離を置くために天皇に代わってその皇女が斎王となり、神宮を祀ってきました。都から伊勢の通過点でもある「榊原温泉」は「湯どり」の地として伊勢神宮にお参りする前に、榊原温泉で身を清めてから伊勢に向かうのが正式な参拝とされました。そのため地元では「宮の湯」と呼んで親しまれていました。

湯治場の賑わいとお伊勢参り

榊原温泉に大きな変化があったのは天正16年（1588年）のこと。日本全国で湯治が一大ブームとなり、榊原温泉にも湯の神を祀る「射山神社」を一角に入れた大きな湯治場ができました。神社境内から湧く「宮の湯」を使った湯治場は100室から成る大規模なもので、おかげ参りの旅人たちで大変賑わったと伝えられています。射山神社も「温泉大明神」という名で親しまれました。

榊原温泉の中心部にある射山神社は、もとは貝石山をご神体としていましたが、湯治場造成の時に現在の地に移されたとされています。

祭神は温泉大明神と呼ばれる大己貴命（おおなむちのみこと）と少彦名命（すくなひこなのみこと）です。

また、江戸時代には「一生に一度はお伊勢さん」と呼ばれるほど、「お伊勢参り」が流行し、庶民の間で憧れの旅路でした。

人々は榊原温泉で「湯どり」をして心身を清めてから伊勢を目指しました。